

## 自民党「第16回ジェネリック医薬品の将来を考える会」について



(正面左：特別顧問・藤井 基之 氏 中央：会長・上川 陽子 衆議院議員 正面右：事務局次長・田畑 裕明 衆議院議員)

2023年3月10日（金）、自民党の議員連盟「ジェネリック医薬品の将来を考える会」（会長：上川陽子 衆議院議員）が開催されました。今回は主に厚労省「医薬品の迅速・安定供給実現に向けた総合対策に関する有識者検討会（2月15日）での議論」（以下、有識者検討会）を踏まえた各議員の質問や意見を共有する場となりました。日本ジェネリック製薬協会からは、高田会長、川俣副会長、吉田副会長、澤井副会長、中沢副会長代理、黒川総務委員長、田中広報委員長が出席されました。

参加した議員からは、現状のジェネリック医薬品産業が抱えている課題をより深く理解することができたとの評価があった一方、「課題整理に留まらず、今後の方向性をいかに示すかが重要」、「ジェネリック医薬品が社会に大きく貢献しているにも関わらず、例えば原価率対薬価で80%を超える品目が全体の約3割を占めているといった立場にありながら、より確かな安定供給が求められている現状をどうしていくべきかが提言に盛り込まれるべき」などのご意見がありました。

産業界を代表する団体の一つとして参加した日本ジェネリック製薬協会に対しては、「コストアップの要因が多くあることは承知しているが、その中でも投資という観点についてどのように考えているのか」という質問が投げかけられました。これに対し、「生産拡大のための投資に加えて、優秀な人材を確保するための投資や、注射剤など日々厳しくなっていくレギュレーション対応への投資も重要であり、そういった投資はしっかりしていけないといけないと考えています。そのような取り組みを行っている企業が生き残っていけるようなビジネスモデルに代えて行かないといけない」と回答がありました。

有識者検討会において話題に挙がっておりますジェネリック医薬品産業の構造改革について、本会では具体的な言及はありませんでした。しかし、直接的な表現はないものの、行政の説明内容や参加された議員のご発言内容から、その必要性は間違いなく感じておられることが容易に想像されるものでした。

本議連では引き続き、有識者検討会での議論を踏まえながら、ジェネリック医薬品の位置付けや構造的課題に関してのあるべき方向性を検討し、「骨太の方針2023」を見据えた提言をまとめることを目指すこととなります。

(取材：日本ジェネリック製薬協会 広報委員会)

(GE薬協レポート)

[https://www.jga.gr.jp/news/230310\\_005037.html](https://www.jga.gr.jp/news/230310_005037.html)

(会長挨拶)

日本ジェネリック製薬協会 会長

高田 浩樹

<https://www.jga.gr.jp/information.html>

(リンクページ：業界に関わる審議会情報)

医薬品の迅速・安定供給実現に向けた総合対策に関する有識者検討会  
経済財政諮問会議ほか

<https://www.jga.gr.jp/link.html>